

## 単元名 (書写)行書と仮名を調和させて書こう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 行書と仮名の調和や配列を理解して書くことができる。  
 (3) 行書で学習したことを、学習活動や日常生活に生かそうとする。

## 標準的な展開例

12210221\_001

【教材名】「美しい自然」 (P. 90～P. 93)

【準備等】DVD-ROM, 水書板, 毛筆のための練習用紙, 学習プリント(硬筆)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 点画の連続を理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで学習してきた行書の点画の連続と、変化について確認する。</li> <li>「美しい自然」を硬筆で試し書きをして、本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★点画の連続を理解して書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>示範や教科書の考えよう(p. 91)を参照し、点画の連続や筆脈が表れている部分について考え、自己課題を設定する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>「美しい自然」を、毛筆で練習用紙や半紙に練習して、批評する。</li> <li>毛筆でまとめ書きをし、自己の課題について振り返り、次時の課題を設定する。</li> </ul> <p>2 点画の連続と形の変化を理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時に、点画や筆脈の連続について学習したことを想起する。</li> <li>本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★点画の連続や配列を理解して書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時の作品「美しい自然」を示範や教科書の文字(p. 90)と比べて、自己の課題を見直し、設定する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>「美しい自然」を毛筆で、練習用紙や半紙に練習して、批評する。</li> <li>毛筆でまとめ書きをする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書(p. 91)を使い、硬筆でまとめ書きをし、振り返りを行う。</li> <li>これまでの学習を生かし、文字の歴史について知り、社会での生かされ方について知る。</li> </ul> <p>3 行書と仮名の調和や配列を理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行書と仮名の調和や配列について、これまでの学習を振り返る。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習課題をつかむ。</li> </ul> <p>★行書と仮名の調和や配列を理解して書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「おくのほそ道」冒頭部分を音読し、硬筆で学習プリントに試し書きをする。</li> <li>基準を基に書いた「おくのほそ道」冒頭部分を批評し、自己課題を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行書と仮名の調和について、これまでの学習のまとめをすることを知らせる。</li> <li>教科書(p. 91)に、行書の特徴を意識させながら硬筆で取り組ませることによって、学習課題への意欲を高める。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>水書板等を用いて示範し、より具体的につかませたい筆使いは、以下のとおりである。           <ul style="list-style-type: none"> <li>①点画の連続「美」「自」「然」 方向の変化、点画のつながり</li> <li>②点画の形の変化 「美」から「し」の筆脈の連続と形の変化 「然」の点画の省略</li> <li>③一次の画への筆脈を意識して書く。</li> </ul> </li> <li>点画の連続に注目するように促し、運筆のために示範、もしくはDVD-ROMを参照する。</li> <li>自己のまとめ書きを振り返り、次時へ向けた学習課題を設定できるようにする。</li> </ul> <p>【評】点画の連続を、理解して書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時に書いた清書を数点示し、本時の目標を捉えられるようにする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>筆使いに追加する基準は、以下のとおりである。           <ul style="list-style-type: none"> <li>④漢字と仮名の大きさ 「し」「い」は小さめに書く。 仮名は漢字よりも小さめに書く。</li> <li>⑤配列 余白、行の中心の取り方</li> </ul> </li> <li>隣同士で相互批評し、課題を見直して練習に取り組める機会を設けられるとよい。</li> </ul> <p>【評】点画の連続や配列を理解して書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「生かそう」(p. 91)で終筆の変化を確認し、振り返ろうに記入させる。</li> <li>発展学習として、行書の古典の歴史に触れ、中国・日本における書の発展の歴史を紹介する。</li> <li>高等学校芸術科書道へつなげる学習とする。</li> <li>王羲之の「集字聖教序」「蘭亭序」などの作品に触れ、文字の歴史を紹介して、行書学習のまとめとする。</li> <li>行書と仮名の調和、配列よく書くために大切なこととして、漢字と仮名の大きさ、行間と余白、筆脈の連続、位置や字形について、教科書を使って確認する。</li> <li>芭蕉の自筆「おくのほそ道」(p. 92)を鑑賞させ、草書や変体仮名にも触れるとよい。</li> <li>基準は、以下のとおりである。           <ul style="list-style-type: none"> <li>①仮名は漢字よりも小さめに書く。</li> <li>②文字の中心の取り方に気を付ける。</li> <li>③行書の特徴である(連続、省略、変化)を意識する。</li> </ul> </li> </ul>

○「おくのほそ道」冒頭部分を、硬筆で学習プリントに書く。

○学習のまとめとして、振り返りを行う。

- ④書く速さに気を付ける。
- ・設定した自己課題を意識させながら、書かせる。
- ・できれば、暗記した状態で書かせたい。
- ・学習プリントは、まず目入りの用紙、罫線や行の中心に補助線がある用紙、白紙など、予想される生徒の課題に合わせて用意したい。
- 【評】行書と仮名の調和や配列を理解して書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・教科書(p.93)に記入させる。
- ・「生かそう」(p.93)にあるように、発展として、これまで学習した俳句や自作の短歌や俳句を短冊などに書く活動を計画してもよい。

【 備 考 】

日本語は漢字と仮名が混ざった言葉が多い。漢字と仮名の配置を考えることで整えて書くことができる。また、実生活の中で文字を書くとき、点画の連続は起こりやすく、また、必要不可欠である。改めてそのきまりや実例を確認することは有効である。

第2学年までに学習した行書の技法を、日常の書写活動に進んで生かし、相互評価や互いの作品を鑑賞することを学習活動の中に取り入れていけるとよい。